



吉川市長 中原 恵人氏

## 市長のメッセージ

江戸川と中川に挟まれた吉川市。古くは舟運で栄え、なます料理をはじめとする川魚料理が有名な田園風景の広がる自然豊かなまちですが、首都近郊に位置しており年々人口も増加しています。

本年は、市制施行25周年を迎えるとともに「第6次総合振興計画」の策定や「吉川市都市計画マスターplan」の改定、さらには「吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改定という3つの計画策定に取り組む大事な年にあたります。コロナ禍においても小さな声、声なき声に耳を傾け、市民と行政の『共動\*』によるまちづくりの姿勢を変えることなく、「価値ある未来」を市民の皆さんと共に創り上げてゆけるよう取り組んでまいります。

\*共動:市民と行政が課題を共有し、解決に向けて共に動くこと。私が掲げる理念の一つ。

## はじめに

吉川市は、埼玉県の南東部に位置し、北は松伏町、西は越谷市と草加市、南は三郷市、そして、東は江戸川をはさんで千葉県野田市と流山市にそれぞれ接している。市域は、東西約4.2km、南北約8.0kmで、面積は31.66km<sup>2</sup>、人口は7万人を超えていている。

市内には、JR武蔵野線吉川駅と吉川美南駅の二つの駅がある。また、市の南東部を常磐自動車道が走り、隣接する三郷市の三郷ICを身近に利用できることから、交通の利便性が非常に高い。

吉川市は、2018年5月から現市役所で業務を開始した。自然採光や雨水の再利用、太陽光発電等の設備を備え、環境負荷の軽減が図られたこの庁舎は、隣接する吉川市民交流センターおあしすと繋がっており、市民が気軽に訪れることができる開かれた庁舎になっている。

## なますの里よしかわ

「吉川に来て、なます、うなぎ食わずなけれ」という言葉があるように、東を江戸川、西を中川に挟まれたこの地には、豊富な川魚を生かした川魚料理の食文化が根付いている。なかでも、なますの人気は高く、身を包丁でたたき、味噌などを練り込んで揚げた「なますのたたき」は、家庭の味・郷土料理として親しまれてきた。

2017年に吉川市が参加した全国なますサミットにおいて、7月2日が「なますの日」に制定された。毎年

この日には、市内小中学校の給食で「なますの日献立」が提供され、今年はミニチにしたなますを使ったタイの人気料理「ガパオ」が登場し、児童・生徒に大変好評であった。

また、本年4月に市制施行25周年を迎えたことを記念して、最大4mの「なますのぼり」6匹を作成し、吉川美南駅構内と同西口ロータリーに展示した。併せて市庁舎などの市内公共施設には、市内全小学校の4年生が色付けをしたなますのぼり約700匹を展示した。

なお、吉川駅南口ロータリーには、漆工芸「蒔絵」の人間国宝・室瀬和美氏が制作した金色の「なますモニュメント」(表紙写真)が、市庁舎の前には、彫刻家・伊藤哲一氏のなますの石像「森と鯰」が設置さ



吉川市庁舎前に設置された石像「森と鯰」

れている。他にも、吉川駅北口前の「よしかわ天然温泉ゆあみ」に作られた無料の足湯施設「なますの足湯」にも、なますのモニュメントが置かれているので、吉川市にお出かけの際には、探してみていただきたい。

## 吉川市概要

人口(2021年8月1日現在)	73,234人
世帯数(同上)	31,313世帯
平均年齢(2021年1月1日現在)	44.2歳
面積	31.66km <sup>2</sup>
製造業事業所数(工業統計)	181所
製造品出荷額等(同上)	1,017.0億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	320店
商品販売額(同上)	796.3億円
公共下水道普及率	82.9%
舗装率	65.7%

資料:「令和2年埼玉県統計年鑑」ほか



## 主な交通機関

- JR武蔵野線 吉川駅、吉川美南駅
- 常磐自動車道 三郷ICから市役所まで約7km

### 文化芸術やスポーツを通じた地域課題の解決

吉川市は、従来から文化芸術やスポーツの振興に積極的に取り組んできたが、近年はこうした取り組みを更に一步進め、国際交流や子育て支援、高齢・障がい福祉などの様々な分野に多面的に活用することで、コミュニティの醸成や地域の活性化、健康・体力づくりといった、地域が抱える課題の解決につなげようとしている。

文化芸術面における取り組みの一つが、演劇プロジェクトである。世界的な演出家・故蜷川幸雄氏が立ち上げた高齢者の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」に啓発されたこの舞台は、彩の国さいたま芸術劇場の全面的な協力の下、2019年に3回目の公演を成功させた。高齢者に限定せず、子どもから大人まで幅広い世代の市民が力を合わせることで、多様性あふれる舞台が創り上げられた。

このほかにも、文芸創作活動の普及・促進を図るため、市民から募集した小説や短歌、俳句などを掲載する文芸誌「文藝よしかわ」を刊行したり、一流の音楽家を招いて「生音コンサート」を開催するなど、様々な取り組みが行われている。

スポーツの面では、吉川市は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、中華人民共和国マカオ特別行政区のホストタウンとなった。パラスポーツを通じた多文化共生社会、バリアフリー社会への理解を深めるため、様々な交流に取り組んでいる。

### 吉川美南駅東口周辺開発

吉川美南駅周辺における開発の動きが本格化している。2012年3月の駅開業後、開発が先行した西口周辺では、イオンタウンANNEX・西街区に続いて、本年6月には同東街区がオープンした。

東口周辺についても、「笑顔と緑あふれるみんなの庭～Everyone's Garden～」をコンセプトに着実に整備が進められている。地区全体を市民すべての庭として捉え、都市と自然の共生の中に笑顔と緑あふれる空間が生まれ、市民一人ひとりが安らぎと潤いを感じられるまちづくりを目指している。

なかでも、東口駅前に広がる商業・業務ゾーンは、市の新たな玄関口として、この地を訪れたくなる利便性の高い店舗や文化施設、女性の就業を支援する子育て施設などの機能を集約した、賑わいのある空間の創出を目指している。 (井上博夫)



演劇プロジェクト公演の様子(写真提供:宮川舞子)